

GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

6月号

2008年6月1日 Vol.166

発行 医療法人社団 織本病院

印 刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘1-261

Tel 042-491-2121 URL <http://www.arimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



新緑の森

日本の医師不足

—私は女性医師として働き続けることができた①—



理事長 高木 由利

新緑が美しい季節になりました。私は毎週、大泉学園の駅前にあるお花屋さんに行きます。5月の終わりからしやくやくが店頭に並び始めるからです。花びらが開くとあの何とも言えない香りが立ちこめます。私は自分の寝室にもしやくやくを1本飾り、この優雅な香りを胸いっぱい吸い込んで眠るのです。私が最も愛する花です。

* * *

5月に日本外科学会が長崎で開かれ“外科医不足の取り組み”というシンポジウムがありました。この歴史ある外科学会の2日目のゴールデンタイムに、このようなシンポジウムを開かなければならぬ日本の医療体制を私は悲しく思いました。

私が医師になった1980年、外科医はヒーローでした。当時私は外科医になりたい旨を外科の教授に話すと“女はダメだ。結婚しない、妊娠しないと約束するなら入局しろ。”と言われたことを思い出します。そして毎年、多くの新人男性医師が晴れて外科の入局を許されたのです。

このシンポジウムの抄録を読むと厚生労働省医政局が相変わらずとぼけたことを書いていました。医師不足地域へ医師を派遣する病院への補助を考えるとか、

増えている女性医師が結婚や出産のために離職せざるを得ない現状を考え、働きやすい環境作りをするとか、臨床研修制度を見直すという訳です。今頃、何を言っているのかと私はあざける気持ちになりました。医師が多すぎるといって医科大学の入学者定員を減らしてみたり、医療費をどんどん下げ、リスクの高い手術をすると病院が赤字になるような医療費を設定したり、一番地域に密着して小回りのきく中小病院を赤字倒産させるように追い込んだり、その結果何が起こるのかを全く考えていないのが日本の政府です。

外科医志望者が減少する原因の大きな要因は訴訟であると筑波メディカルセンター病院の足立先生は語っています。しかし、これは外科医だけではなく病院の勤務医離れも同じ原因があると思います。病院にいれば重症者を抱えることは日常茶飯事ですし、どんなに綿密な医療計画を立てても患者さんを救命できないことは多々あります。また、すべての病院がすべての科の医師を持っている訳ではありませんので、自分の専門外の患者さんを診なければならないことがよくあります。それでも1人1人の医師は専門の医師に相談し、自分でも学び、必死に1人の患者さん

の治療をするのです。しかし、マスコミ特に新聞は救急患者に関することなどで専門でもない医師が関わったとか、救急を断り、たらい回しにしたとか、実情も分からず騒ぎ立てるのです。

医療費を下げ、医療機関の経営状態を危機に追い込み、一方患者負担を多くし、日本の誇るべき国民皆保険を崩壊させた国の責任は大きい。日本の医療を壊した責任をとり、国が医療を如何に守るかを原点に戻

り改めて考える時が来たのではないでしょうか。

医師が医師として情熱を持って自分の人生をかけるだけの医療環境が今の日本には失われていると私は感じています。そしてこの環境下で女医が医師として女として母として妻として生きていくのはとても辛いことなのです。でも私は最も過酷と言われている中小病院の当院で21年間働き続けることができました。それは国が助けてくれたのではありません。織本病院のドクターを始めとする多くのスタッフが私を支えてくれたからです。

織本病院腎友会 お料理教室

腎友会お料理教室に参加して

透析センター 臨床工学技士 平林 隆志



私は、昨年の7月から織本病院透析センターの臨床工学技士として働いております。実は、はるか遠い昔、24年前にも専門学校を卒業してすぐにこの織本病院透析センターに就職し、4年と少しの間働いておりました。

当時の織本病院透析センターは、地域において最大規模の透析施設として最先端の血液浄化医療を担っていました。（退職してから気が付きましたが…）

医療について何一つ知識も経験もない私がこの透析医療を大好きになれたのは、当時の厳しくも優しい諸先輩方と人生の大先輩である患者さん達のおかげとしか言いようがありません。

当時は患者さんとゴルフをしたり、野球をしたりと医療以外での付き合いもたくさんあり、透析を受けている患者さん達の普段の姿を拝見させて頂き、たいへん良い勉強になった覚えがあります。その後、色々な施設で透析医療に関わってきましたが、病院外での患者さんとの関わりはあまりできない（好ましく思われない）職場ばかりでした。（語弊があるかもしれませんのが私の正直な印象です）そんな中でいつも思い出すのが、織本病院での楽しい医療現場のことでした。そして20年振りに縁あってまたお世話になることと

なり、当時の先輩や出戻りのおじさんを温かく迎え入れてくれた若いスタッフ達と共に心地よく働いております。

今回のお料理教室では、会場セッティングなど力仕事だけのつもりで参加したのですが、スタッフと患者さん達の楽しそうな姿を見ているうちに、思わずデジカメを取りに行き写真を撮りまくっていました。あま



り良い出来ではありませんが、また機会があれば今度はもう少しいい写真を撮りたいと思います。

患者さんやそのご家族と一緒に料理を作っているスタッフの姿は、病院職員と患者さんという硬い関係

には感じられず、和気あいあいとした雰囲気が会場一杯に広がり、私は本当に楽しい時間を皆さんと共有することができたと感じております。そして、ここに帰ってきたのだという実感が湧いてきました。

我々医療スタッフにとって患者さんから教わることは本当にたくさんあるということを、今回さらに実感できました。残念ながら今回は若い技士達が日程の都合がつかずあまり参加できなかったのですが、このようなイベントには是非積極的に参加して、もっと普段の患者さん達を感じてくれたらと思います。

これからも、患者さんやスタッフにとって楽しい織

本病院透析センターであり続けられるように一スタッフとして努力したいと考えております。



楽しかった料理教室

織本病院腎友会 副会長 石田 健郎 様



織本病院腎友会総会の催し物としてお願いした「料理教室」は織本病院にとって初めてのことでしたが、思った以上に盛大で豪華な「料理教室」になりました。せっかくの休日にも関わらず、栄養科松元科長を中心に、透析センター小林看護師長、藤野技師長をはじめセンター職員総出で準備作業をして下さり、至れり尽せりの「料理教室」で、みんな楽しく協力しながら、美味しく仕上げられました。

私は腎臓病料理ということで、本音はあまり期待してなかったのですが、出来上がった料理はさすが松元科長が知恵を出して下さった為でしょう、ちらし寿司、浅漬け、ドーナツと、どれをとっても腎臓病食とは思えないほど、本格的な出来栄えで大変美味しかったです。料理は具や調味料の工夫次第で美味しくできるのを実感して、家内に講釈の1つも言って見ようと思いましたが、やめておきました。だって手伝わされるのは嫌ですから…

食後、由利先生がお忙しい中いらして、お祝いをして下さいました。また、病院関係者皆様の「腎友会」に対する暖かい思いやり

に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私達透析患者は、基本的に一生涯この病院にお世話をならねばなりません。今後も「織本病院腎友会」を応援して頂き、折に触れ様々なご指導を頂きたく思います。そして会員皆と仲良くがんばって行こうと思いました。

参加者の皆さん、応援して下さった病院、職員の皆様、楽しくて、意義のある総会ができたことを感謝すると共に、心よりお礼申し上げます。



第45回 織本病院 院内学会

INFORMATION

当院で毎年行われている院内学会では、各職員が患者様により良い医療を提供できるよう日々努力し、その1年間の研究成果を発表します。今年は6月24日（火）に、下記の演題で開催されます。

◎ マルチスライス CTについて

放射線科 小山 徳一

◎ 慢性腎不全における減量の腎機能障害抑制効果

栄養科 建路 七織

～中央機器管理化の経過報告～

透析センター 平林 隆志

◎ 転倒・転落とその対策

外科病棟 佐々木 たき子

◎ 維持透析患者の睡眠時無呼吸に対する

◎ スキンタッグの治療 “肛門美容形成”について

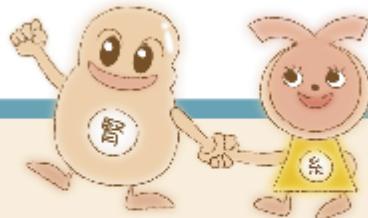
理事長 高木 由利

【教育講演】

：自験248症例の手術材料を用いて

副院長 西平 哲郎

第87回 腎疾患ゼミナール



腎不全と共に生きよう!! ⑥ 腎臓内科：高木由利

栄養科からのワンポイントアドバイス

1人前の調理をしよう！～カレー編～

管理栄養士：建路七織

2008年6月26日（木）

午後1:00～2:00

オリモトホール（当院4F）

参加費無料